

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401483		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	〒859-1107 長崎県雲仙市吾妻町牛口名378-2 (電 話) 0957-38-6855		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(平成21年 1月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	11人	常勤 10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	3.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	4 階建ての 3 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 200 円 夕食 350 円 または1日当たり 円	昼食 おやつ	300 円 円

(4) 利用者の概要(1 月 30 日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低 61 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安藤病院・土井歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は地域から信頼される病院であり、デイケア・デイサービス・グループホームを持つ医療と福祉を一体化した機関である。ホームは病院の3階に位置し、医療面の充実が基より、入居者や家族に安心を与えている。入院室を改造しており、家庭的な雰囲気をかもし出す為の取り組みは随所に見られ、訪問時はお難様の段飾りを入り口に飾り、入居者のみでなく訪問者も楽しませている。ホーム全体が日当たりが良く明るく、入居者の顔まで元気に見える。残存機能を活かす取り組みとして、マッサージやリハビリを取り入れ、訪問時には、テレビ体操を全員でされており、機能の維持・向上に尽力している。常に笑顔を保ち、入居者を中心とした生活支援を念頭に一緒に過ごしており、今後益々期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価を改善の一端と捉え、前回の評価に対する改善計画シートを作成し、特にプライバシーに関しては、家族向け(写真と実名を掲載)と外部向け(写真を排除し、イニシャルで記述)を変えて2部作成する・地域の関わりを徐々に増やす・外出は出来るだけ月1回は取り入れる等、積極的に改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者が今年度の実施事項を記述しており、職員の関わりが不足している。自己評価の項目はホーム全般に亘っており、内部研修を兼ねて、全職員に書式を配布し、項目に沿って記述する事で、ホームで生活していくうえでの必要事項を理解し、ケアの向上に繋がる取り組みを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に、市町村の担当者・民生委員・家族の代表(2名)・ホームの代表を構成メンバーとして、定期的開催している。和気藹々とした会議で、ホームの状況報告や、参加者から助言や要望を聞き、運営に反映している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族とは訪問時に意見や要望を聞くようにしているが、殆ど言われる事はない。ホームからは、衣類の入れ替え・他の医療機関への受診をお願いする事がある。また、家族交流会を実施しているが、入居者との触れ合いを主体としており、家族の意見交換の場ではないが、交流を図る事で、ホームの理解に繋げている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 関連法人のデイサービス利用の知り合いに会いに行き、お茶を一緒にしたり、元気な人は、同窓会に参加したり、時には自宅に帰宅し、知り合いと会う等、住み慣れた地域での生活を維持する支援をしている。また、保育園や幼稚園の園児がホームに来ることもあり、地域との交流は徐々に前向きに取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「いつも笑顔を大切に、居心地の良い暖かな生活の場を提供します」として、見やすい場所に掲示している。職員は明るく元気に支援することで、入居者も元気になるのとらえ、地域医療機関としての母体の中で、穏やかな生活支援を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は分かり易く、職員間で共有している。入居者とは目線を合わせ、乱暴な口調を慎み、入居者の笑顔を大切にしながら、日々のケアに当たっており、明るい職員が多く、全員で積極的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	関連法人のデイサービス利用の知り合いに会いに行き、お茶を一緒にしたり、元気な人は、同窓会に参加したり、時には自宅に帰宅し、知り合いと会う等、住み慣れた地域での生活を維持する支援をしている。また、保育園や幼稚園の園児がホームに来ることもあり、地域との交流は徐々に前向きに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を改善の一端と捉え、前回の評価後には改善計画シートを作成し、特にプライバシーに関しては、家族向けと外部向けは、写真の掲載の有無や、実名をイニシャルに変える等、積極的に改善に取り組んでいる。また、自己評価は管理者が今年度の実施事項を記述しており、職員の関わりが不足している。	○	自己評価の項目はホーム全般に亘っており、内部研修を兼ねて、全職員に書式を配布し、項目に沿って記述する事で、ホームで生活していくうえでの必要事項を理解し、ケアの向上に繋がる取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、市町村の担当者・民生委員・家族の代表(2名)・ホームの代表を構成メンバーとして、定期的開催している。和気あいあいとした会議で、ホームの状況報告や、参加者から助言や要望を聞き、運営に反映している。		

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、介護保険の手続きや、連絡が必要な時に訪問して、情報入手や相談をしている。また、公的扶助の入居者を福祉課の担当者が来訪することがあり、必要時のみの交流であるが、現時点では不自由を感じる事はない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームの行事・お知らせや、個別に近況報告を載せた「やすらぎだより」を発行し家族に配布している。また、診療結果や特別の変化は電話で報告している。ホームで金銭の預かりは実施していない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは訪問時に意見や要望を聞くようにしているが、殆ど言われる事はない。ホームからは、衣類の入れ替え・他の医療機関への受診をお願いする事がある。また、家族交流会を実施しているが、入居者との触れ合いを主体としており、家族の意見交換の場ではないが、交流を図る事で、ホームの理解に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は年間数名あり、採用は事務所でやっている。職員の休暇は希望に沿って取り入れ、新年会・忘年会を実施し、働きやすい職場に向け努力している。職員が交代で入居者に携わり、入居者主体の生活を管理者を中心に支援している。しかし、馴染みの職員による継続的な支援の面では不安がある。	○	グループホームは職員が、個別に細部に亘る関わりによる支援が必須であり、職員の資質は重要である。ホームに合った職員の採用は大変と思えるが、「やすらぎ」の方針に合った職員に向け、現場職員の意見も必要と考えられ、馴染みの職員による継続的な支援に向けた工夫を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内(医療面を中心に実施)・外部・内部の研修の機会は多くある。毎月、その日の勤務者のみが参加するグループワークを開催(PM1:00~2:00)して、記録を残し、参加できなかった職員に閲覧している。全員参加の会議の開催はなく、職員間の統一が不足している。	○	職員は諸事情で勤務外の研修を受講する事はないが、全職員が一同に会した会議の開催の重要性を今一度職員で話し合い、全員のスキルアップに向け、行事・入居者のケア・生活面・医療知識・法令遵守・接遇マナー等、様々な事を学び、向上心を持って働く職場を目指した取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人内にグループホームがあり、頻繁に交流を図り、互いの情報や相談をして、運営の向上に活かしている。また、近く他ホームと交流も試みており、少しずつ、幅を広げたネットワーク作りに取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、デイサービスの利用者や、病院又は他の機関からの紹介による。デイサービスの利用者は1週間位は体験を兼ねて、ホームに遊びに来てもらい、徐々に慣れての入居に至っている。家族には契約書を含め、必要書類を説明し、同意を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である入居者から、昔の話や言葉について聞くことがあり、共に暮らす仲間として、穏やかな生活と一緒に楽しみながら、良好な関係を維持している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と会話することで、希望や意向を把握している。基本情報やアセスメントで、生活歴や現状を理解し、支援に繋げている。新人職員は、夜勤時に資料を見てケアに活かせる情報を入手し、日々の支援に取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の主訴を基本に計画を作成している。目標・生活課題・援助内容を記述した支援経過記録を毎週担当者が記録し、計画の共有を図っている。また、サービス内容は、生活の楽しみや医療の両面を加味して作成している。計画の作成後は、家族の了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月と状態の変化時に見直しを行っている。担当者が毎週支援経過記録を記述、毎月評価の実施・特記事項に気付きを記述、6ヶ月毎にアセスメントを実施する等で、計画の実行状況やサービスの必要事項を把握し、新しい計画を作成している。しかし、あまり変化がないのが現実で、季節を取り入れたサービス内容を思考中である。		

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のニーズに沿って、母体の医療面を活かし、入院や退院を、状態の変化に伴い早急に取り組んでいる。また、機能の維持・向上に繋がる、リハビリへの通院や家族の宿泊等、できる事は柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院への受診は、朝の申し送り時に連絡をし、待つ事がなく、診察が受けられる。月2回は、主治医の往診も受けている。必要に応じて他の医療機関を紹介する事もある。母体以外の受診は家族が同行している。病院の3階にホームが有り、24時間安心した医療の提供が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応・終末期ケア対応指針や看取りに関する指針を明確にし、家族の同意を得ている。今までホームでの看取りはなく、入院になる事が多い。入居者の状況を報告し、家族・医師・ホームの職員が情報を共有し取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の評価を礎として、「やすらぎたより」を家族向け(写真と実名)と外部向け(写真を排除し、イニシャルで記入)の両方を作成している。また、法人内で、プライバシーに関する研修に参加し、日々のケアに活かして入居者と接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パンフレットに、精神的安楽な生活を謳い、入居者一人ひとりのペースに合わせた介護を明確にしている。基本的な1日のおおまかな流れは決まっているが、入居者それぞれのパターンを把握して、無理をしない支援を実践している。		

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業の中で、食器拭き・下膳・後片付け等、出来る人は一緒にしている。又、早出をした職員と一緒に食事を摂っている。何度も同じ事を言われる入居者に対して、食事の雰囲気壊さない職員の対応が印象的であり、広い丸テーブルに全員座り、大家族の食事風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックにより、身体状況を確認して、週2回以上の入浴支援を実施している。拒否者に対しては柚子湯や菖蒲湯等、季節に応じて支援したり、声掛けを行いながら、清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームを自宅の延長と考え、仏壇にお仏飯をお供え(昼食に食べられている)・洗濯・編み物・日記・習字・縫い物・外出時のお化粧等、今までしてきた事を入居後もすることで、生活の喜びとして、活力に繋がる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回を目標に、季節と天候に配慮して外出を取り入れている。デイサービスの車両を使用して、おやつを持ってドライブや、ホームの周辺の散歩や、近くの商店に買い物に行く等、出来る限り外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	病院の3階がグループホームであり、入り口が直接階段に繋がっている為、家族へ説明し施錠する事がある。必要な入居者の居室に鈴を付け、出入りを把握し、出来るだけ施錠しないようにしている。万が一の徘徊者に対する情報提供に活用できる書式を準備している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体で、消防署が立会い、消火・避難訓練を昼・夜を想定して実施している。自動火災報知器や防火シャッターの設置や、懐中電灯の準備がある。安全面に配慮した、地震に関する訓練の実施や、グループホーム単独で全職員が参加した訓練の実施はなく、夜間の職員体制にも不安がある。	○	夜間は2ユニットに職員が1名であり、非常時の対応を考えると不安であり、21年度からの制度改正に伴い、2名体制を考慮されることに期待したい。また、ホーム独自の訓練の実施や、地震災害時や非常時における、備蓄や持ち出し品に関して、繰り返し職員間で共有を図られることを期待したい。

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は病院の管理栄養士がバランスを考慮して作成し、ホームで調理を行っている。入居者の状態に配慮して、刻み・お粥やエンシュアを使いながら、健康管理に努めている。食事量や水分は病状に合わせて支援し、記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの入り口にはお雛様を飾り、入院室であったスペースを家庭的な優しい雰囲気にする為の工夫が随所に窺える。3階であり、日当たりが良く明るく、騒音を感じる事はない。テーブルには季節の花を飾り、広いリビングには畳の部分を作り、ベランダにベンチを置き、それぞれの居場所を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くゆったりとしており、持込品は多くはないが、仏壇・衣装コンテナ・小物・写真等、使い慣れた必要な品を持ち込み、それぞれの生活が滲み出ており、安心して過ごせることに留意した支援を実施している。		